大阪大学経済学研究科/経済学部

部局間協定校派遣生の海外留学体験

１．基本情報

体験談記入日（☆）	2024 年　8 月　10 日
大阪大学での所属学部/研究科（☆）	経済学部/経済･経営学科
留学時の学年（☆）	2 年後期～3 年前期
派遣ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ名（☆）	☑ 交換留学　☐ 研究留学助成金 ☐ その他　（　）
渡航先国名・地域名（☆）	台湾
滞在都市（☆）	台北市、新北市（寮）
留学先大学等名（☆）	国立台湾大学
留学先での所属学部/研究科（☆）	管理学院/国際企業学科
留学先で主に使用した言語	英語、中国語
渡航先への入国日（☆）	2023 年　8 月　26 日
渡航先からの出国日（☆）	2024 年　6 月　26 日
渡航先国での滞在期間（☆）	10 ヶ月
同伴者の有無・続柄・年齢等	無
その他	

２．留学先の大学に関する情報

２．１授業に関する情報

履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Principle of Microeconomics (with Recitation) 2023/09-12 Summer 50m×5 回×16 週 対面講義 3 時間、TA セッションが 2 時間 4
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Microeconomics (1) 2023/09-12 Summer 50m×3 回×16 週 オンデマンド講義、グループワーク 3
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Macroeconomics (1) 2023/09-12 Summer 50m×3×16 週 オンデマンド講義、対面授業 3

履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	General Chinese Language Course(Ⅰ) 2023/09-12 Summer 50m×6×16 週 対面授業 3
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	International Companions for Learning 2024/2-6 Spring 50m×1×12 週 Skype、学校訪問 2
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Market and Strategy 2024/2-6 Spring 50m×2×15 週 対面授業、グループワーク 2
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Global Marketing and Negotiation Skills 2024/2-6 Spring 50m×3×15 週 対面授業、グループワーク 3
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	General Chinese Language Course(Ⅱ) 2024/2-6 Spring 50m×6×15 週 対面授業 3
履修科目名称 履修期間 授業時間（〇分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Chinese Enhancing Course (II) 2024/2-6 Spring 50m×4×15 週 対面授業 1
留学生（日本人）の割合	授業は留学生メインのものと現地学生メインのものがある。中国語クラスは留学生のみ。台湾学生の必修授業では交換留学生は少数。ほぼ全ての授業に日本人が 1 人はいる印象。
成績評価の方法（試験・課題の数や分量等）	経済経営系授業は試験・期末レポートの比重が大きい。中国語やグループワーク中心の授業は出席も重要。

	Principle of Microeconomics (with Recitation): Midterm (30%) and Final (40%) Exams, Participation (15%),Homework (3%),Exam-Giving Contest (2%) 授業内容はマンキューの教科書レベルのミクロ経済学。週 2 章進行で毎週課題あり。主に台湾の 1 年生が受講。グループワークあるが成績は中間・期末試験がメイン。試験では英語での長文回答が必要で、ミクロ経学の基礎力と英作文力が向上。 Microeconomics (1) : Individual Tasks, Group Tasks, and Games: 20%、Practice Midterm: 2%、Midterm: 35%、Practice Final: 3%、Final Exam: 40% 中級マクロ経済学。消費者の嗜好と効用、予算制約と最適選択、需要と供給、交換経済、ワルラス均衡など。週 1~2 時間のオンデマンド講義後、対面で小テストとグループワーク wp 実施。台湾人メインのグループに配属されると、彼らが中国語を使用して議論し、参加できない可能性がある。私のグループはスペイン人、韓国人、台湾人で、英語で議論。オンデマンド授業をきちんと受講すれば内容は理解可能だが、テストは難しい。中間テストの成績不振者には教授が履修取り消しを推奨していた。 Macroeconomics (1) : Midterm (34%) 、Final Exam (34%) 、Homework (32%) 毎週 1～2 時間のオンデマンド講義を受講し、 その内容に基づく補足的授業が対面で行われる。日本で学習するマクロ経済学よりかなり内容が難しい。 課題も 3 回ほど提出があり、内容はとにかく難しいので、スライドを何度も見返し、友人と議論してやっと理解ができるものもある。おそらく日本語でも難解な授業であり、しっかりと勉強する必要がある。 Market and Strategy: 20% for homework, 20% for quizzes, 10% for the midterm report, 20% for the presentation, and 30% for the final report 市場の動きと企業戦略の関係を学ぶ。価格差別や製品差別化、広告効果などのトピックを通じて、企業戦略が市場に与える影響を理解する。教科書や配布資料を事前に読み、数学を用いて多く板書を用いた対面講義に参加する。内容がとにかく難しく、5 回ほど小テストはあるが 0 点を取ることもあった。最初の授業で 4 人グループを作成し、グループ課題と発表を毎度行う。少数の非

	常に優秀な台湾学生が集まっていて、授業内容についていくのに精一杯で、グループの足を引っ張ってしまったことが多かった。R や Python などの統計が行えることを推奨とされている。 Global Marketing and Negotiation Skills: classroom performance(35%),attendance (10%), quizzes (15%), semester group evaluation (10%) グローバルマーケティングとビジネスの文脈で交渉の理論と実践を学ぶ。ロールプレイ形式のシミュレーションを通じて、交渉スキルを実際に練習する。 交渉学がメインになるが、内容はかなり実感に即して分かりやすいものが多く、教科書のレベルも高くない。自動で決められる 3 人グループに分かれてのグループワークがメインで、実際に売り手と買い手に分かれて交渉し、スコアを競う。受講生の 90%以上が留学生で、英語でビジネス的な交渉を練習でき、友人も作ることができる上に期末テストもないので良い授業。 International Companions for Learning 留学生と地元の台湾学生がペアになり、台湾各地の小中学生と交流する。スカイプによるオンラインビデオセッションでは、台湾学生ペアのサポートを受けながら担当学校の ALT 講師として日本文化を紹介。現地訪問では、配属された学校やその他の学校に実際に赴き、生徒たちとアクティビティを行う。ビデオセッションでは生徒側からも台湾の様々なことを教えてもらい（一週間ごとに自分と相手がプレゼンテーションをする）、現地訪問では一緒に行く留学生や子供たちと仲良くなり、旅行先としては行くのが難しい地へも無料で行くことができるので、国際交流と文化交流ができるので、単位互換はされないがおすすめ授業である。履修後は公式なボランティア証明書が発行される。 中国語授業 留学を通して、本格的に中国語を学ぶか、 あくまで英語での学習に専念するかは分かれることになると思うが、 海外留学生と関わる機会を増やすという意味でも、中国語授業の履修自体は全員に強くお勧めする。英語開講の授業を履修しても、現地大学生の必修授業に紛れ込むタイプの授業であれば、台湾学生と交

	流する機会はなかなか少ない(大阪大学でも、授業の中に留学生を見かけることはあっても、積極的に交流をしないのが現実ではなかろうか)。その点で中国語の授業は全員が留学生であり、週に 2 回以上の頻度で会ってグループワークが多く、授業前後に一緒にご飯を食べることもあるので仲良くなりやすい。 1 番友達ができる授業は中国語であると個人的に思っている。
履修科目の制限等（あれば）	最低取得単位数はクリアする必要がある。台湾大学は基本的に違う学部の授業も履修することができるようになっているが、一部は学部生限定で受講できない。
（英語圏以外の場合） 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	英語開講の授業は全て英語であり、留学生同士の交流は基本的に英語がメインである。中国語クラスの友人たちとも授業外では英語で会話することがほとんど。慣れてくると、留学生と中国語で会話することもあった。
語学に関するｻﾎﾟｰﾄ(特別授業、ﾁｭｰﾀｰ、ｴｯｾｲﾗｲﾃｨﾝｸﾞに関するｻﾎﾟｰﾄ等)	利用なし
授業内での留学生に対するｻﾎﾟｰﾄ等	授業内で不明点などがあれば、教授や TA に尋ねるとほとんどの場合真摯に答えてくれる。メールでのやり取りなども早く、留学生に限らず学生に対して親身な先生が多かった。
その他	履修には抽選が存在し、希望の授業が取れないこともある。しかし、抽選で落ちてしまっても直接最初の授業に出席し、教授にその旨を伝えると、認証コードをもらい、追加で履修できる制度が整っている。特に最初の 1～2 週間は授業があまり進まないことがほとんどなので、気になる授業には積極的に出席して、雰囲気を確かめてみることをおすすめする。結局は履修をしなかったが、その時出会った友人と最後まで仲良くする、ということもあった。

２．２福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	食堂の数は多く、種類も豊富でとにかく安いのでたくさん利用する。キャンパス内には学生証を持参していると学割を受けられるお店が多い。ただし、ずっと同じ食堂のご飯に通い詰めていると、留学の後半はちょっと嫌いになってしまう時期もある（今は非常に恋しい）ので注意。 第一学生活動中心：

	図書館付近のメイン食堂。留学生との食事のほどんどはここ。利用者数 No.1 で、昼食どきはとにかく混むので行く時間には注意が必要。自分で好きな具材をとり、重さに応じて値段が決まる台湾式ビュッフェ（自助餐）が個人的おすすめ。とにかく安くお腹いっぱい食べたい時は隣のベジタリアンミール（食香園素食館）へ。50 元でご飯をモリモリよそってくれる。 女九餐廳： 同じく台湾式ビュッフェや、滷味という煮込みが美味しい。台湾式ビュッフェは夜 19:10 以降 2 割引になる。 Louisa Coffee： 管理学部近くにあるチェーンコーヒー屋さん。安くてどれだけ居座っても良いのでよく学習に利用していた。麺屋さんや台湾ビュッフェのお店も併設している。（ビュッフェのラインナップは個人的に 1 番好き） 他にもいろんな食堂や施設があるのでいろいろ回ってみてください。
図書館について	総合図書館と社会学院図書館の二つ。大阪大学よりも開館時間が長く、設備も整っていると思う。どちらも非常に多くの時間利用した。図書館には蓋のついた飲み物以外持ち込めないこと、夏でも空調が強すぎるので寒くない格好をすることなどの注意が必要である。 総合図書館： 外からの見た目が立派で、中も比較的新しく清潔感がある。2 階に個人で区切られてかつ充電もできるスペースがあり、そこをよく利用していた。地下には 24 時間解放の自習室があり、試験期間は住み込んでいるひともいる。グループ討論室を利用することもできる。 社会学院図書館：

	とにかく見た目がオシャレ。1 階図書館内の席や 2 階自習室で学習できる。社会学院等で授業があることも多いので、前後で利用する機会が多い。
保健ｾﾝﾀｰ等の有無	総合図書館手前に保健センターがあり、外国人向けに英語でも診察をしてくれる。利用した際の料金は比較的安かった（保険に入っていると思うので関係ないが）。営業時間が短いのと、マスクの着用が必須になることに注意。
ｸﾗﾌﾞ・ｻｰｸﾙ等について	台湾大学はクラブ活動も非常に活発。学期の始まりにクラブ紹介イベントや新歓イベントがある。日本のサークルというより部活動に近いクラブの割合が多いように感じた。台湾の現地大学生との関わりは主にこのサークル活動がメインになると思う。私は ダンスサークルと日台交流会（日本人と台湾人の交流サークル）に所属していた。英語で話してくれる学生はもちろん多いが、基本的にサークル活動は中国語のみで行われるため、ダンスサークルには最後の発表会まで参加することはできなかった。
留学生へのｻﾎﾟｰﾄ	大学開始時期には大学側がバディを一人つけてくれるので、最初の時期にわからないことは質問したら助けてくれる。台湾の留学担当の方も優しい。台湾の学生はみんな本当に優しく、英語も喋れる人が多いので、わからないことがあった場合は周囲の台湾学生に尋ねると助けてくれることが多い。
オリエンテーション等学校主催の行事について	管理学部は最初にオリエンテーションがある。ここで履修の説明、留学生同士の交流、インターネット料金支払い手続きの紹介、実際に大学を回るツアーなどを行なってくれる。この時出会った友達とも今後仲良くすることが多い。数日後には十分旅行やパイナップルケーキ作り体験、台北 101 に登るデイトリップイベントなどが開催され、同じ学部の留学生や台湾のバディの人たちとも仲良くなることができた。無料なのでおすすめ。私の時は日本人が私しかいなかった。
現地の学生との交流について	授業の中で台湾人の友人を作るのは少し難しい。同じグループワークの友人もあくまで仕事仲間といった関係で終わってしまうことが多い。日本と同じで留学生よりは積極的ではない人が多く、留学生同士の輪に現地学生はあまり入ってこない。現地学生との交流をしたいのであればやはりサークルに入ることが 1 番であると思う。

他の留学生との交流について	主な出会いは中国語のクラス、セメスターの最初（オリエンテーション期）にできた友達グループ、留学生の多い授業、同居人など。一番仲がよくなるのは中国語の授業で、その人たちと旅行やパーティをすることが多かった。特に学期の初めにいろんな人と関わっていると、そこから数珠繋ぎでいろんな人との繋がりが広がっていった。
学外での活動について（地域コミュニティー活動等）	台北市で一般人が開催する日台交流会への参加や、日本人留学生支援に向けた正規留学生による学生団体との交流などを行っていた。
長期休暇中の過ごし方	休暇期間中に中国語を伸ばしたいと思うようになり、語学学校（師範大学）に通った。他にもバイク免許の取得、国外国内旅行、旧正月期のホームステイなどをした。また、1 月の成人式に出席したかったため日本に一時帰国した。
その他	

３．ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類（☆）	RESIDENT 二学期間の場合は RESIDENT ビザのみ取得可能である。
ビザの取得手続について（申請方法、申請から取得までの所要期間等）（☆）	大阪中之島の台北駐大阪経済文化弁事処で取得。事前にオンラインでビザ申請書を作成し、その他多くの書類を用意する必要がある。申請および交付期間が限られており、申請完了後 5 営業日後に再度訪れる必要もあるので、とにかく早めに作成しておくことをお勧めする。
利用航空会社	タイガーエア台湾、エバー航空、チャイナエアラインなど
入国の際の現地空港名	台湾桃園国際空港
空港から滞在先への移動について（交通手段や所要時間）	台北駅へ MRT の空港線(Airport Line)を利用。普通電車（青）55 分、快速（紫）35 分。MRT は混雑時立ち乗りの可能性あり。高速バス（1819、1961）も選択肢。バスは荷物を預けられ座席もほぼ確実。慣れたら高速バス利用もおすすめ。
入国審査について（提示した書類、審査官からの質問等）	審査官からパスポートとビザが確認され、特に質問されることはない。居留証（ARC カード）を保有すると、以後出入国はゲートが利用できるようになり、パスポートか ARC をかざせばすぐに出入国ができるようになる。また帰国の際は、肉製品などの食物の持ち込み禁止となっているので、生肉やビーフジャーキーなどを持ち帰らないように注意が必要。

渡航後の手続き(在留届の提出、外国人登録等)	半年の VISITOR の場合特に手続きは不要（かと思われる）。RESIDENT の場合は台湾に到着後 15 日以内にシングルビザから ARC カードへの切り替え手続きを行う必要がある。オンラインのサイトで申請を行い、完成の通知が来たら内政部移民署でカードを回収する。オンライン申請でも何度かやり直しをもらうこともあり、顔写真をアップロードしようとすると大抵の場合容量オーバーになるため圧縮が必要など、一筋縄ではいかないこともある。
その他	

４．金銭に関する情報

奨学金の受給	有
奨学金名	業務スーパージャパンドリーム財団奨学金 70 周年記念事業奨学金
奨学金月額受給額（円）	業務スーパー：月額 15 万円×9 ヶ月と留学一時金 15 万円 70 周年記念事業：8 万円
入国時に用意した金額	空港で 1000 元だけデビットカードで引き落とした。お金を下ろす際その都度手数料がかかるので、なるべく一度に多くおろした方が良いと思う。
ｸﾚｼﾞｯﾄｶｰﾄﾞについて（ｶｰﾄﾞ会社名・日常の利便性）	VISA の楽天カード、三井住友カード、エポスカード 日常の飲食店などの支払いは現金ベースで、コンビニでさえカードが使えない時もある。クレジットカード払いをするとき現地通貨決済か日本円決済を尋ねられた際は、現地通貨決済を推奨する。
留学中に利用した銀行名	ゆうちょ銀行
現地での銀行口座開設について（開設の有無・手続き等）	中國信託銀行の口座を開設した。寮のデポジットを返済するために口座が必要と言われたため開設したが、結局デポジットは現金で支払われたので必要なかった。同銀行で口座開設をしたい場合は、ARC、パスポート、マイナンバーや免許の番号（日本）があれば良い。
ﾃﾞﾋﾞｯﾄｶｰﾄﾞの使用について	最初はデビットカードでお金をおろしていたが、デビットカードよりキャッシングの方が少し手数料を低く抑えられると知ってからキャッシングをするようになった。友人が導き出した最善策は、エポスカードでキャッシングをし、その後金額をリボ変更、ペイジーでリボ増額払いをするというもの。この方法が 1 番手数料が低くなるため自分もこの方法を取っていたが、気にせずデビットカード引き落としを利用し続け

	る人も多い。ここまではしなくても、キャッシングの方がデビットカードより安いことは押さえておくと良いだろう。 ・海外キャッシングできないカードがある（楽天カード、三井住友はできなかった） ・デビットカードの引き出しには一日に上限がある ・ATM の機械によって下ろせるカードと下ろせないカードが存在する 以上のような問題があるため、お金を用意できるカードは複数毎持っていくことを推奨する。
日本からの送金方法について	ゆうちょ口座に残高を追加してもらい、そこからキャッシングでお金をおろしていた。
1ヶ月の生活費（目安）	寮に住んでいた場合、月に 2 万元（約 10 万円）前後で生活ができると思う。昔ほど安上がりではないことには注意する必要がある。旅行費などは含んでいない。 食費：9000 元 交通費：2000 元 居住費：寮 3800 元（電気代は別） 一人暮らし 16000 元（水道電気込） 通信費：588 元
その他	私は旅行にたくさん出かけ、食事も毎度食べたいものを食べ、留学生と贅沢をしたりもしたので、月の支出が 20 万円ほどしてしまったこともあった。

５．暮らしに関する情報

５．１住居に関する情報

住居の種類(学生寮（一人部屋・二人部屋）・ｱﾊﾟｰﾄ等)	前期は圓通宿舎（四人部屋のみ）、後期は忠孝新生のアパート（一人暮らし）。
家賃	寮は 6 ヶ月で 19000 元の契約。丸々住むと 1 ヶ月あたり 3800 元（電気代はカード購入で別代金） 一人暮らし 16000 元（水道電気込）
住居を探した方法・時期	水源寮の抽選に落ちたため、自動的に圓通宿舎にアサインされた。後期のアパートについては PAPAGO という日本人向け台湾留学支援の会社から物件を探した。どちらも出発前に日本でさがした。
荷物の運搬方法 （ハンドキャリー、国際宅配便（会社名、プランも）等	冬服等は国際郵便(EMS)で日本から送付。内容物とその単価を記載し合計で関税が決定。保険加入やオンラインでの追跡

	も可能。寮 1 階ロビーで受取。学内郵便局から日本への発送も可。 引越しや大量荷物時はタクシーでの移動推奨。特に Uber は運転手が荷物運搬を手伝ってくれる。引越し費用はタクシー代約 1500 円程度。
その他	圓通宿舎について 4 人部屋限定。私は運よくドイツ人とオランダ人との 3 人暮らし。建物は新しいが入居時は清掃不足で埃や汚れあり。前居住者の家具も残存。電気は初回に電気カードを購入しチャージして使用。家賃は非常に安い。24 時間スタッフが駐在、洗濯機と乾燥機、冷蔵庫、給水給湯器がフロアに用意されている。近くにスーパーとコンビニあり。ゴミ捨ては地下ゴミ置き場へ。Wi-Fi は強くない。 交通は不便。MRT「南勢角」駅から徒歩 25 分。無料バスと Youbike も利用可。無料バスは登校時間に 20 分間隔、朝は非常に混雑。MRT と寮間を 10 分強で移動。Youbike は 10-15 分で往復可能だが、帰宅時は在庫切れの可能性あり。MRT 通学の際は「古亭」駅で緑線に乗り換えて「公館」へ。895 のバスなどで公館と宿舎をつなぐバスに乗れば、乗り継ぎが不要。 生活の質は同居人次第。良好な経験もあれば、問題のある同居人もいる。例えば女子専用部屋への彼氏連れ込みや、早朝の迷惑アラームなどがあったらしい。交通や生活には慣れていくので、同居人との相性が最重要。またフロア運もあり、3 階などのフロアは NTU の留学生が多く、ロビーが溜まり場になって一緒に映画を見たりしていた。私の 12 階は私の部屋以外は台湾の別大学の量として使われ、二人の台湾人との会話しか関わりがなかった。10 階は女性限定フロア。

５．２　食生活についての情報

普段の食事（自炊・食事つき学生寮等）	外食文化のため、外食が基本。自炊を前提としておらずキッチンが無い家も多い。登校時は学食割合多め。外食レストランはとにかく多い。野菜を取るのが難しく、特に生野菜はコンビニぐらいしか売っていないため、野菜のサプリを飲んでいた。帰国前はコンビニや Uber Eats もよく利用した。コン

	ビニは夜に割引があり、Uber もキャンペーンが多くさほど高くない。
1ヶ月の食費	9000 元前後。個人の節約次第で大きく変わり、冬休みに留学生とたくさんご飯に行った際は 14000 元までしてしまったこともある。
その他	台湾はタピオカミルクティー発祥の地。自動販売機が無い代わりに、町の至る所に飲み物屋さんがある。紅茶は味が美味しくタピオカも 50 元程度から飲めるので、ぜひ一生の半分以上のタピオカを飲んでほしい。個人的優勝は黒糖珍珠奶茶（黒糖タピオカミルクティー）。得正（焙烏龍奶茶）、50 嵐（布丁奶茶）（金桔子）などおすすめは多すぎる。

５．３　その他日常生活に関する情報

電話について	台湾の中華電信で台湾の電話番号を取得。YouBike の利用やアプリの登録など、電話番号が必要になることが多いので、台湾で物理 SIM を契約することをお勧めする。日本の電話番号を契約した SIM も使いたかったため、古い携帯も持って２台持ちしていた。
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄについて（Wi-Fi 環境等）	中華電信の学生プラン、インターネットは使い放題。通信費は月額 588 元で国際電話をすると追加徴収。毎月カウンターまで支払いに行くのが面倒だった。台湾到着後物理 Sim を契約するまでのしばらくは KKday の eSIM を日本で契約し利用。空港到着後すぐにその場でプリペイド SIM を購入し、その後携帯を契約する人が多い。
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰについて	日本から Surface を持ち込み、途中から Mac に移行。ノート用に iPad も利用していた。総合図書館の一階でゲートを通って左右にパソコンスペースがあり、このパソコンを利用することもできる。右手のスペースは受付か端末で予約が必要。台湾大学の授業は課題が多く勉強はかなり大変なので、想像以上にパソコンとにらめっこする機会が多い。
郵便について	大学や駅内の郵便局が利用可能。日本の友人に手紙を送ったり、国際郵便を送ったりできる。
交通機関について	MRT（地下鉄,捷運）、バス、自転車が主な移動手段。台北内の移動は Google Map に従えばどこでもいけるようになっている。 MRT とバスを駆使すれば台北と新北市内はどこへでも行ける。MRT は日本よりわかりやすい。改札通過後は飲食が一切

	禁止なので慣れるまで注意。バスは MRT より安く便利な時も多いが、運転は少し荒く、バス停で待っていても手を上げなければ止まってくれない。特に通学時はほぼ確実に遅延。交通系 IC には悠遊卡（EASY CARD），一卡通(iPASS)などがあり、学生証はそのまま悠遊卡として使用でき、バスでは学割が自動で適応される。学内の移動は自転車が基本。日本で乗り慣れていたので、最初に 2800 元で新品の自転車を購入していた。大学で中古自転車も販売している。自分の自転車を購入した場合は大学側へ自転車の登録を推奨する。時間によって決まる駐輪禁止区域などがあり、自転車が回収されることがあるが、電話番号などを登録していたため通知が来た。自転車を止めるためのレーンも道路の至る所にある。 そして台湾で一番便利な交通手段が YouBike。市内の至る所にあるシェアサイクルサービス。最初に台湾電話番号でアプリを設定すると利用できる。利用時間ごとに料金が決まり、2024 年 2 月から 30 分以内の利用が無料になった。台湾の交通状況にも慣れ始めたら、この YouBIke で台北を縦横無尽に移動することになった。 MRT、バス、YouBike が乗り放題になる TPASS と呼ばれる定期券サービスもあり、1 ヶ月 1200 元。圓通寮に住む人は元がとれる。フッ軽になりたい人にはおすすめ。
治安について	悪いと思ったことが一度もない。傘を一度間違えて取られた程度。奇人や物乞いも日本の都市部より少ない。深夜に歩き回っても問題はなく危険を感じたことはなかった。
保険について	たびほの海外留学保険に入っていた。ストレスや食生活の変化により合計 3 度病院へ行ったが、タクシーでの病院往復費含め医療費は全額振り込んでくれた。紛失した傘や他人に壊された機械等も全額保証され、合計で契約金と同等くらいの保険金がもらえた。
医療機関・薬について	大学の保健センターや台安病院、街医者にかかった。街医者は英語があまり通じなかった。保健センターは英語が通じて料金も低い。台安病院は外国人専門病棟があり、予約は必須で料金はとても高いが日本語が通じる。結局保険が出ることを考えると台安病院が一番安心して受診できた。
気候と服装について	夏は高温多湿でとにかく暑いが、冬になると思ったより寒い。夏は梅雨に入ると一日中雨で台風もくるので、折り畳み

	傘は必須。冬は部屋に暖房機能がついていない建物が多く、湿度が高い分同じ気温で比べると日本より寒い。服装はラフな格好をしている人が多く、夏は暑いので半袖にサンダル。メイクをしていない女性も多いためこちらも気が楽。冬はしっかり冷えるので極暖や暖かすぎないダウンを日本から送ってもらった。NTU 限定グッズも販売しており、可愛いので記念に購入。道端にあるお店で売っている服は女性用が多い。SHEIN も台湾では利用可能。
普段の買い物について	寮にいた時は寮を出てすぐのスーパーで買い物をしていた。コンビニでの買い物も多い。台湾では買い物を行う際に発行されるレシート（發票）が宝くじになっており、レシートをスマホに埋め込むアプリ（載具）の有無や会員の有無をレジでよく聞かれる。私は運良く 1 万円近く当たったので入れて置いても良いかもしれない。最低限の英語やジェスチャーができれば買い物はできる。また「買一送一（一つ買うと一つ無料）」「第二件五折（2 個目は半額）」などまとめ買いが安くなる台湾独特の割引方法などを最大限利用していた。洗面や水回りなどの生活用品はドラッグストアで購入することが多く、日本製品も多く見られるがどれも高いため、日本で準備できるものは持ち込むことをお勧めする。蝦皮（Shopee）などの EC サイトも利用できる。
娯楽・行事について	留学生や台湾人と一緒にご飯を食べたり、パーティをしたり、旅行に行ったり、バーやクラブに行ったりした。積極的に交流すると、語学力も伸びて色々な国の文化を学べるので良かった。予算次第ではあるが海外旅行もおすすめで、日本出発よりもかなり安くベフィリピンや香港、マカオ、シンガポール、マレーシアなどのアジア地域を観光できた。海外留学生もそもそもアジアに興味がある人が多いので、差別を経験したこともないし、彼らもよく色々な国を観光している。
日本語の使用について	留学で日本語断ちをするかしないか、これは留学における最大の議題だと思う。台湾には日本人が溢れているので、1 週間に日本語を聞かない日はなかった。私は留学中の日本人との出会いも大切な縁だと考えていて、日本人とのつながりを拒みはしなかった。日本語でだからこそできる相談、情報収集、人脈獲得、魂の会話（英語や中国語で深い内容は話せないため）があったことは確かである。ただし、振り返ると日

	本人と絡みすぎてしまった節はあったと感じている。日本人との絡みをしない人もいて、確かに日本人とばかり絡みすぎてしまうともったいないと思ってしまうので、自分の中で正解を見つける必要がある。
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	薬やサプリ、洗面用品など、日常で使う日本製のかさばらないものは現地で購入すると高価であるため、日本から持っていくとよい。個人的には財布を紛失すると致命的なので、財布に入る発信機がかなり役に立った。部屋にも虫が湧くので、虫がいなくなるスプレーやムヒなども必須。あとは個人的には傘、タコ足配線、デスクライト（圓通寮は必須）、ご飯をこぼしたときに使うシミ取り、お酒をよく飲む人はウコンの力的なものなどは持っていくと役に立つと思う。動画を撮るのが好きなのでカメラも購入して持っていきたかった。
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	言語勉強に尽きる。他の国の留学生は英語に苦しんでいる様子は見受けられない中、私は授業や会話をしていてしばらくは英語が話せず聞けずブルーになっていた。中国語も授業中は基本中国語のみで、英語が喋れるからいいやと臨んでも結局現地での生活は中国語ベースなので、どちらも話せれば話せるほど良い。話せる状態で行けば行くほど帰国時点での語学力の伸びも大きくなっていると思う。 また、日本のことをもっと知っておくべき。漫画やアニメ、東京、寿司など日本文化に対して海外の人は皆興味を持っているが、自分が知らないケースが多く悔しかった。 あとは写真を見返すとき、自身の撮影センスに絶望することがあるので、上手な写真の撮り方を学んだり、ちょっといいカメラを買って持っていけば良かったと後悔している。
その他	

６．就職活動に関する情報

留学前の就職活動について（セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等）	特になし
留学中の就職活動について（海外からの情報収集、企業へのｺﾝﾀｸﾄ、ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ等）	2月ごろから就活の情報収集、自己分析を開始した。セミナーなどにも参加し動き出しは早かったが、就活の予定があるせいで留学生の誘いを断るなど就活に時間が取れられて留学の密度が薄まり、留学も就活もどっちつかずになっている感

	覚があったので、一度就活をやめた。6 月末に帰国して就活を再開した際には、すでにサマーインターンの締切が終わっていたこともあって、その点が少し悔しかった。情報収集は日本人から行うことが多く、台湾から就活をする人や、就活を終えて台湾に来ていた日本人も多かった。また積極的に台湾で経営者などと関わりにいくような学生もいた。私も縁に恵まれて、台湾に駐在されている商社や IT、航空会社、メーカーの方々等とお話をする機会があった。

７．語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	IELTS の勉強をしたが、あまり身が入ってはいなかった。英会話はするように意識しており、DMM 英会話を契約して可能な限り毎日レッスンを受けるようにしていた。中国語の勉強はほとんどしていなかった。
留学中の学習方法、工夫したこと等	英語中国語共に、とにかく会話する機会を増やしに行こうと意識して行動した。英語は授業の中で専門単語などに出くわすとその意味を調べていた。寮に住んでいると、本当に全ての会話が英語に切り替わるため、環境としては良かった。中国語は発音が悪いととにかく相手に通じない。逆に漢字から意味を推測できることは他国の留学生に対して圧倒的にメリットがあるので（他の留学生にとって漢字の全てがただの記号でしかないのだと考えるとゾッとする）、ピンインをひたすら覚えることを意識し、反射的に発音が正しくできるようにした。単語のインプットは Anki というアプリを用いて行い、積極的に交流会に参加して、語学学校に通って、日本語の喋れない台湾人を一対一で誘ったりしてアウトプットをした。
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	留学を通して「思った以上に中国語がのびすぎて、思ったほど英語が伸びなかった」という印象。英語は文法やフレーズ、単語帳などの勉強をしなくなったため、毎度思ったことを無理やり英語で伝える力は伸びたが、文法意識しておらず、いまだにネイティブ同士の会話についていくのは難しい。中国語はリスニングが難しいが、簡単な日常会話は英語よりも簡単に頭に浮かぶようになった。TOEIC は今後受験予定で、HSK は 5 級相当ではないかと思われる。

８．その他

留学して得られたこと	あらゆる物への適応力、国際的友人、英語に対するハードルの解消、内省的視座、泥臭くなんとかする力、自信、文化的包容力、あまり人のことを気にしすぎて生きて行く必要はないのだという自分軸での生き方、欧米の方々のポジティブさ、未来への動機、自立、言語能力、台湾への愛。
留学中に困ったこと	同居人とのトラブル、就職活動との両立、体調不良、虫刺され、金欠、日本食が恋しくなる。
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	先輩方の声、台湾の情報発信インスタグラム

９．留学体験談・エッセイ（様式任意）
留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を１～２ページ（様式任意）で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室の HP や Newsletter に掲載させていただく可能性があります）。

はじめに

台湾で有益と思われる情報は上に全て書きました。ここから以下は、留学をさせていただいたことへの感謝の気持ちと共に、約一年間の国立台湾大学での経験を僕の感情ベースで振り返り、想いを綴っていこうと思います。私の留学は、本当にさまざまな人からの支援があって、無事に成し遂げることができました。家族、友人、留学の担当の方、その他さまざまな方々へ感謝の気持ちでいっぱいです。この文章を読んでくださっている皆さんも、拙い文章を読んでいただき誠にありがとうございます。皆さんに留学や台湾について少しでも興味を持っていただければ幸いです。

留学を志したきっかけ

漠然と将来留学をしたいと思うようになったきっかけは、小学２年生の時にロンドンオリンピックの応援をしにロンドンへ行った経験です。２週間の滞在で異世界を経験し、私の世界観が大きく広がりました。この体験から、将来海外で学び、生活したいという漠然とした希望を抱くようになりました。

なぜ台湾か

大阪大学経済学研究科/経済学部

部局間協定校派遣生の海外留学体験

留学先として台湾を選んだ時、最初は消極的理由でした。どうしても最初は英語圏のロンドンやアメリカ、カナダに行きたかったのですが、大学とサークル、バイトを両立させながらの勉強では IELTS のスコアが足りませんでした。

そんな中、意外と台湾が狙い目だという話を伺い、留学先を台湾に絞りました。台湾には英語力を伸ばしながら同時に中国語も習得できる環境が整っています。欧米諸国への留学に比べると金銭的負担はかなり小さくなります。留学生は本当にさまざまな国から来ていて、ヨーロッパ留学のような経験もできます。日本にも余裕で帰れますし、台湾から海外旅行にいくとかなり安いです。そして一番と言っても過言でない理由が食事。僕はとにかく食べることが大好きで、お昼を食べたら夜ご飯に何を食べるか考えているような性格です。前にヨーロッパのコンビニで食べたサンドイッチが食べきれないほど不味かったこともありましたし、そもそもお米なしの生活に耐えられる気がしませんでした。

こういった本音から台湾が「色々ちょうど良い」留学先として志望することになり、協定校の中でも海外留学生の受け入れが特に多く、優秀な学生が集い英語開校の授業も多い大学として、国立台湾大学で留学することにしました。こんなことを言っても良いかわかりませんが、台湾の他の大学に交換留学をした場合、立地的にはかなり大変だったと思います。

留学前

留学するまでの準備はかなり大変でした。手続きが多く試験期間とも被っていたので、留学を辞めたくなるくらいでした。この点は本当に、留学は行ってしまいさえすれば勝ちで、留学中は最高の日々であることを約束するので、ただただ頑張ってください。特にビザの作成、健康診断の受診は大変です。台湾大学の留学担当の方は良い方ですが、留学許可証をなかなか送ってくださらない可能性も念頭に入れておいてください。

留学生活

初めての台湾、留学初期は毎日がドキドキワクワクでした。ファーストインプレッションは、思ったより日本っぽいけど確かに海外、という感じです（純粋に旅行先として台湾はおすすめ）。大学の開始前に余裕を持って入国していたので、毎日ホテルから台北を歩き冒険した時の興奮は今でも忘れられません。とはいえやることは多く大変でした。

大学が始まると、いきなりオリエンテーション。席に着くといきなり「Hi, nice to meet you!」交流の始まりです。とにかく英語が出てこない、聞き取れない！初日で完全に自信を失ってずっとメンタルがやられていました。そのままみんなで夜ご飯を食べに行った時は、とにかくいろんな国から留学生が来ていて、いろんな訛りの英語が聞こえてきて、ついに留学が始まったんだと実感しました。

それから大学がついに始まり、毎日が出会いの日々です。同居生活も始まり、数えきれないほどの人と数えきれないほどコミュニケーションをとりました。日々を生きて行くのに一生懸命で、10ヶ月間、言葉にできないような充実感にあふれた日々でした。ホームパーティではしゃいで、夜市を歩いて、海で泳いで、ダンスの発表会に出て、台湾の給食を食べて、部屋で映画を見て、クラブで踊って、バーで酔っ払って、同居人と本気で喧嘩して、ホームステイで旧正月を満喫して、バイクの免許を取って、台湾を一周して…。本当に毎日が楽しくてしょうがなかった、夢のような日々でした。

留学中の勉強

留学中の私の第二の家は図書館かカフェです。むしろ家よりもいた時間が長いとさえ思えます。華やかな留学生活ですが、時間で見るとその半分はパソコンに向かってお勉強です。

台湾大学での授業はとにかく大変です。まず英語で授業を受けるだけで、予習復習合わせて日本の何倍もの時間がかかるのは容易に想像がつくと思います。課題も毎週出ますし、テストも難しいことが多いです。履修のコマ数は多くないですが、土日のどちらかを丸々空けておかなければ課題が終わらないような状況もたくさんありました。何よりも驚くのは、現地の台湾大学生が優秀だということです。日本の大学では、楽に単位をとったもん勝ち、勉強を真面目にするのは恥ずかしい、といった風潮があるのが事実だと思いますが、台湾大学の学生は本当に真面目に勉強をしています。そのため平均点も上がるので、自分も負けられまいと勉強をする必要があります。留学生も、特にグループワークなどで積極的に発言し、日本だと耳にしないようなこともズバズバと言ってきます。その場において、自分が留学生でどこの誰であるかなどは関係ありません。勉強や学問に対して、前よりもっと真剣に取り組むようになったのが一つ、留学を経て良かったことなのではないかと思っています。

留学を振り返って

僕の留学はこんな感じでした。

この留学を通して、得たことは山のようにあると思っています。台湾が大好きになりましたし、日本の良いところや悪いところも見つめ直すことができ、何もかもを自分で行ってきたことによる自信がつきました。今まで人がどう思うかばかり気にして生きてきたのが、自分軸で思ったことを話し生きていけるようになりました。自分は外交的な人だと思っていましたが、本当は内向的な自分に向き合えていなかった、など新しい自分にも気付かされました。欧米の留学生たちにも感化され、少しポジティブにもなった気がします。

中でも、留学を通して１番成長したと思うのは、適応力だと思っています。新しい文化への、新しい生活環境への、新しい言語への適応。どんな困難なことや問題が目の前に立ちはだかっても、なんとかしてその状況に適応して，泥臭くとも「なんとかやっていく」力、臨機応変

と書いて「行き当たりばったり」と読むような力が、この留学で得た１番の力だと思っています。これから先もたくさんの困難が人生で降りかかってくると思いますが、その時もなんとかやっていけるだろう。今はそんなふうに思えています。

最初はハードルが高く、周りからはすごいと言っていただけるような留学かもしれませんが、そんなに怖がる必要はないんです。なんとかなります。英語が喋れなくても、なんとか生きていけます。誰も僕の下手な英語を貶しません、みんな訛っています。このレポートが自慢っぽいと思われた方や、今まではそこまで台湾留学を魅力的に感じてこなかった方など、たくさんのかたがいるかと思いますが、それでも、僕は声を大にして言いたいです。留学は最高！！我愛台灣！！謝謝！！